

2023 年度事業方針

世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会は創設以来、寛容な精神に基づく積極的な対話、諸宗教間の相互理解から生み出される叡智の結集、社会のあらゆる分野との協働、そして地球的視野で行動できる人づくりを実践目標に掲げ、「すべてのいのちをいかし合う世界」の実現を標榜してきた。そしてその実現のため、平和に向けた(1)ネットワーク化の推進、(2)啓発・提言活動、(3)平和教育・倫理教育、(4)人道支援、の4つの行動指針のもと宗教協力活動に取り組む。

世界情勢

昨年2月24日のロシアのウクライナへの進攻により始まったロシアとウクライナの戦争は、第2次世界大戦以降保ってきた国際秩序、国連体制を揺るがすものとなっている。国連常任理事国であるロシアが国際法を破り独立国を侵攻し、さらには核兵器の使用を示唆したことは、人類全体を危険にさらしている。世界は、国際紛争を力によって解決する「力の時代」に回帰させてはならない。

世界人口が80億人を超えた地球では、気候危機も喫緊の課題である。地球の気温は確実に上昇し続け、それにとまなう大雨や洪水などの異常気象や海面上昇による浸水などが世界各地で報告されている。世界は、第21回気候変動枠組条約締約国会議(COP21)で採択された「パリ協定」の目標である、「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ1.5°C以下に抑え」、「可能な限り早く世界の温室効果ガス排出量をピークアウト」するための取り組みを協力して加速させなければならない。

また、アフガニスタン、ミャンマー、シリアなどでの政治的混乱や紛争により人々は避難を余儀なくされ、世界の難民・国内避難民は1億人を超えたと報告されている。さらに、世界的に収束を見せない新型コロナウイルス感染症による影響も相まって拡大する経済的・社会的不平等に加え、雇用や教育機会の格差、ジェンダー格差、デジタル格差、世代間の格差の拡大により貧困層や高齢者、女性、若者、子ども、移民・難民、性的・社会的マイノリティーの人々はより脆弱な立場に置かれている。一人ひとりの「いのちの尊厳」が脅かされ、世界の人々は不安の中を生きている。われわれ宗教者は、これらの人々とともに歩んでいく。

重点活動

WCRP日本委員会は、上記の厳しい世界情勢において、第10回WCRP世界大会の「リндаウ宣言」をもとに策定された行動計画、第9回ACRP大会で採択された「東京宣言」、WCRP創設50周年記念事業で掲げた「WCRP日本委員会アジェンダ2030」(以下「WJアジェンダ2030」)を実行する。特に本年は、広島で開催されるG7サミットに向けたWCRP日本委員会の会合や諸宗教平和円卓会議、韓国宗教平和国際事業団(IPCR)セミナー(以下IPCRセミナー)の国際的な会合を実施する。また、AI等の先端技術社会における宗教者の役割に関する対話の可能性を探る。

① 諸宗教平和円卓会議(東京平和円卓会議)

ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻をはじめ、世界では政治的混乱や武力紛争によ

って多くの人々が命の危険にさらされている。これらの戦争・紛争・暴力を諸宗教の連帯を通じて乗り越えるため、昨年 WCRP/RfP 国際委員会と共催で諸宗教平和円卓会議（第 1 回東京平和円卓会議）を開催した。紛争下にある 14 カ国の宗教指導者などが参加し、対話継続の必要性を確認した声明が発表された。この成果を踏まえ、WCRP 国際委員会より第 2 回諸宗教平和円卓会議の日本での開催を再び要請された。日本委員会としても万全の準備をもって受け入れる。

② 核兵器廃絶への取り組み

昨年は、核兵器禁止条約第 1 回締約国会議と第 10 回核不拡散条約（NPT）再検討会議が開催されたが、十分な成果や前進を得たとは言いがたい。そのような中、本年 5 月に広島にて G7 サミットが開催される。WCRP 日本委員会はこの機会をとらえ、広島でシンポジウムを開催し、核なき世界の実現へ向けた宗教者の提言を発信する。

③ アジアの和解に向けた取り組み

アジアにおいては、軍事クーデターにより始まったミャンマーの国軍政権による市民への弾圧など、人々の平和を脅かす多くの問題が噴出ししている。東アジアにおいても、米中の緊張関係が増す中、核大国化を目指す北朝鮮など、日本の外交が問われている。WCRP 日本委員会は、積極的に ACRP と連携し、アジアの平和に向けて協力していくとともに、IPCR セミナーへの参画・受け入れ等を通して日中韓の宗教者による対話の一層の促進、さらに、新型コロナウイルス感染拡大により中止となっていた日韓交流プログラムの再開を通して交流強化に努める。

タスクフォース・常設機関の取り組み

本年、タスクフォース・常設機関では、オンラインや SNS 等を活用しつつ、対面での活動も徐々に再開していく。また WCRP 創設 50 周年記念式典で発表された「WJ アジェンダ 2030」の実行に向け、宗教協力による実践的な平和活動を行う。

ストップ！核依存タスクフォースは、日本パグウォッシュ会議、核軍縮・不拡散議員連盟（PNND）、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）等との協働を継続し、核なき世界の実現へ向けて活動を展開する。気候危機タスクフォースは、「WCRP いのちの森づくりプロジェクト」や「感じる地球ワークショップ」を通して地球温暖化対策への実践や気候危機問題への啓発活動を展開しながら、WCRP 日本委員会が発出した気候非常事態宣言の具体的実践を行う。和解の教育タスクフォースは、平和をもたらす人づくりプロジェクトの第 3 期「平和と和解のためのファシリテーター養成セミナー」の募集に向けて検討を行う。人身取引防止タスクフォースは、「人身取引反対世界デー」に向けて啓発活動を行うとともに、アジア各国の諸宗教ネットワークと連携し活動を行う。災害対応タスクフォースは、ウクライナやミャンマーの情勢に注視し、宗教協力による人道支援活動を引き続き実施していく。平和研究所は、平和に向けて議論を深め、タスクフォース・常設機関の活動の理論的な基盤を作る。女性部会は、いのちの教育、災害弱者への取り組みの精神を継承すると共にジェンダー問題にも取り組んでいく。青年部会は、本年発足 50 周年を迎える。この記念事業をアジアの青年とともに実施し、青年部会の新たな宗教協力を展開する。

以 上